

研究報告

看護学生が基礎看護学実習で認知した臨床看護 — ナイチンゲール・ヘンダーソン看護論を比較・照合資料として —

近藤裕子¹⁾, 南 妙子²⁾, 岩本真紀²⁾
近藤美月³⁾, 國重絵美¹⁾

¹⁾徳島大学医学部保健学科, ²⁾香川大学医学部看護学科, ³⁾愛媛大学医学部附属病院

要 旨 1年次の看護学生におこなった基礎看護学実習において, 今後の実習のあり方を検討するために, 学生が臨床の看護をどのように認知したかについて, 学生のレポートを分析した. 学生の臨床の看護に関する認知は, ナイチンゲールやヘンダーソンがいう看護のメタパラダイムに焦点化して看護をとらえていることが明らかとなった. 看護学概説の統合として位置づけられるこの実習から, 学生は理論を通して看護の実践場面をみることができおり, 知識を統合する実習として有効であると判断できた.

キーワード: 基礎看護学実習, 臨床看護, 認知, 看護論

はじめに

看護学生にとって初回の基礎看護学実習は, 看護の実際に触れることにより, 看護に対する動機付けの機会となる. 学生は緊張と期待の中, 実習場に出かけ患者の生活する環境や, 看護が行われている状況を見学し, 教室内で学習した知識との統合をはかっている. 基礎看護学実習に関する研究では, 実習指導案¹⁾や看護の概念形成を目的とする展開方法の検討²⁾, 有効な見学実習のあり方についての調査³⁾, 学生の学び⁴⁻⁶⁾を分析したものなどがある. しかし, 学生が臨床の看護をどのようにとらえたかについての研究は見あたらなかった. 学生が臨床の看護をどのように認知しているかについて明らかにすることは, 学生の臨地実習のあり方を検討するための資料として, その後の学生の授業内容や授業に対する取り組みを考える上でも重要であると考えられる.

今回, 初めての臨地実習において, 学生は患者に提供されている看護を見学することで, 臨床の看護をどのように認知したかについて分析を行った.

目 的

看護学生がナイチンゲール・ヘンダーソンの看護論をもとに, 初回基礎看護学実習において, 臨床の看護をどのように認知したのかを明らかにし, 臨地実習のあり方を検討する.

方 法

1. 対象

2001年5月に行った初回基礎看護学実習を履修したA大学1年生60人である.

2. 方法

初回基礎看護学実習において, 既習の看護論をもとに学生が, 臨床の看護をどのように認知したのかについてのレポートを課し, その内容を分析した. レポート課題は, 既習の理論と臨床の看護を比較・照合し, 考察することである. レポート内容から学生が臨床の看護について記述している文章を抽出した後, 1文章が一つの意味をもつように書き出し, 類似内容ごとにカテゴリー化し名前を付けた. 信頼性はスコットの式を用いた. 一致率は79.6%であった. 学生には実習・レポート評価が全て

2004年11月22日受理

別刷請求先: 近藤裕子 〒770-8509 徳島市蔵本町3-18-15
徳島大学医学部保健学科

終了した後に、レポート内容の分析目的と発表について説明し、承諾が得られた58人（96.7%）を分析対象とした。

3. 倫理的配慮

学生には、採点修了後にレポートの分析およびその結果を発表することについて説明した。分析内容に関しては、個人名が特定されないこと、結果を次回からの臨地実習に活かしたいことなどについて説明し承諾を得た。

4. 基礎看護学実習の位置づけと内容

1) 実習の目的

初回基礎看護学実習は、看護学概説の実習として位置づけられており、看護学概説で学習した内容を臨地で統合する実習である。

2) 実習目標

本実習は、看護の対象である入院患者の生活環境を見学し、理解を深めること、看護についての理解を深めるために既習の看護理論と実習で見学し体験したことを統合し、考察することを目標としている。これら2つの目標を達成するために、①入院患者の生活環境の実態把握、②医療チームメンバーの役割と連携、③看護師の位置・役割機能の把握、④見学した看護活動の目的、⑤ナイチンゲール、ヘンダーソンの看護論を比較・照合資料として入院患者の環境・看護などについての分析と考察、⑥専門科目と共通科目の学習の必要性、⑦興味・関心を持つ課題、の7つの行動目標を設定している。

3) 実習期間

1年生の5月に一週間の病棟実習を実施している。

4) レポート課題

前述した7つの行動目標について学生は、実習終了後、行動目標全体で原稿用紙10枚程度になるレポートを書き提出する。今回分析したレポートはその中の一課題である、ナイチンゲールとヘンダーソンの看護論を比較・照合資料として、臨床の看護について分析・考察することである。他の6課題のレポートを併せて採点し、実習の評点の一部に加えている。

結 果

レポートから抽出した学生の記述件数は276件あり、それらは「看護のとらえ方」「理論との照合」「環境のとらえ方」「人間のとらえ方」「健康のとらえ方」の5カテ

表1 看護学生が認知した臨床の看護

n = 58 総記述276件 一致率79.6%		
カテゴリー	サブカテゴリー	
看護のとらえ方 (103)	環境への働きかけである	(18)
	患者を中心としている	(10)
	自立をうながす	(10)
	健康回復への働きかけである	(9)
	ヘンダーソンの看護に適合している	(8)
	基本的欲求を満たす	(8)
	ナイチンゲールの看護に適合している	(7)
	個を尊重している	(7)
	心身両面へのアプローチである	(6)
	ナイチンゲール・ヘンダーソンの考えに適合している	(5)
	教育・指導の役割を持つ	(3)
	観察が重要である	(3)
	家族も対象である	(3)
サイエンスでありアートである	(2)	
コミュニケーションが重要である	(2)	
看護師は心をもって接している	(2)	
理論との照合 (56)	ナイチンゲールやヘンダーソンの考え方が活かされている	(16)
	ヘンダーソンの理論が使われている	(16)
	メタパラダイムは関連している	(16)
	ナイチンゲールの理論が使われている	(6)
	ナイチンゲール・ヘンダーソンの理論だけではない	(2)
環境のとらえ方 (50)	人的環境が重要である	(10)
	ナイチンゲールの考えと一致している	(9)
	健康や疾病の回復に影響する	(9)
	物理的環境が重要である	(6)
	人に影響する	(4)
	社会的環境が重要である	(3)
	環境には種類がある	(3)
	看護師も患者にとって環境の一部である	(3)
	心に影響する	(2)
理論と一致しない	(1)	
人間のとらえ方 (34)	個性がある	(7)
	環境に影響される	(6)
	ナイチンゲールやヘンダーソンの考え方に通じる	(4)
	コミュニケーションにより関係を築いている	(4)
	理解が難しい	(3)
	自然の受け手	(3)
	ニーズを持っている	(2)
	家族も看護の対象である	(2)
心と体は切り離せない	(2)	
弱い存在である	(1)	
健康のとらえ方 (33)	心身のバランスがとれている状態	(7)
	自立していること	(7)
	心身が充実している	(5)
	健康にはレベルがある	(4)
	ヘンダーソンの考えに一致する	(4)
	看護の目標である	(3)
	重要なものである	(2)
理論と一致しない	(1)	

() 項目数

ゴリーに分類できた(表1)。

「看護のとらえ方」のカテゴリーについては103件の記述があった。そのサブカテゴリーは、「環境への働きかけである」「患者を中心としている」「自立をうながす」「健康回復への働きかけである」「ヘンダーソンの看護に適合している」「基本的欲求を満たす」「ナイチンゲールの看護に適合している」「個を尊重している」「心身両

面へのアプローチである」「ナイチンゲール・ヘンダーソンの考えに適合している」「教育・指導の役割を持つ」「観察が重要である」「家族も対象である」「サイエンスでありアートである」「コミュニケーションが重要である」「看護師は心をもって接している」の16サブカテゴリーに分類できた。

次に記述が多かった「理論との照合」のカテゴリーは56件の記述があり、「ナイチンゲールやヘンダーソンの考えが活かされている」「ヘンダーソンの理論が使われている」「メタパラダイムは関連している」「ナイチンゲールの理論が使われている」「ナイチンゲール・ヘンダーソンの理論だけではない」の5サブカテゴリーであった。

「環境のとらえ方」のカテゴリーについては50件の記述であり、「人的環境が重要である」「ナイチンゲールの考えと一致している」「健康や疾病の回復に影響する」「物理的環境が重要である」「人に影響する」「社会的環境が重要である」「環境には種類がある」「看護師も患者にとって環境の一部である」「心に影響する」「理論と一致しない」の10サブカテゴリーに分類できた。

「人間のとらえ方」のカテゴリーの記述は34件あり、そのサブカテゴリーは「個性がある」「環境に影響される」「ナイチンゲールやヘンダーソンの考え方に通じる」「コミュニケーションにより関係を築いている」「理解が難しい」「自然の受け手」「ニーズを持っている」「家族も看護の対象である」「心と体は切り離せない」「弱い存在である」の10サブカテゴリーであった。

「健康のとらえ方」のカテゴリーには33件の記述があり、「心身のバランスがとれている状態」「自立していること」「心身が充実している」「健康にはレベルがある」「ヘンダーソンの考えに一致する」「看護の目標である」「重要なものである」「理論と一致しない」の8サブカテゴリーに分類できた。

考 察

看護学概説では看護の概念や、看護の対象、看護活動、看護理論家たちが看護についてどのような考え方をしているかなどの学習を通して、学生が看護について理解を深めることができるような講義の組立を行っている。初回の基礎看護学実習は、実習開始までに看護学概説で学習した内容を、臨床の場で見学し、知識の統合をはかることを目的としている。その実習において看護学生が、既習の理論を通して、臨床の看護をどのように認知した

のかについて分析した。

学生が臨床で看護師の看護活動を見学し、その状況からとらえた看護は、ナイチンゲールやヘンダーソンの理論と一致していると認知している者が多い。

分析したカテゴリーからは、看護の構成要素である看護・人間・環境・健康の4項目と、理論との照合の1項目が抽出された。

「看護のとらえ方」のカテゴリーでは、「環境への働きかけ」ととらえた記述が多くみられている。これは毎朝、看護師が患者個々の環境を整備している現状を見学し、ナイチンゲールが述べている、患者によい環境を整えることの重要性と一致した看護であると認知している。さらに「患者を中心としている」「自立をうながす」「健康回復への働きかけである」「基本的欲求をみたす」などのサブカテゴリーからは、ヘンダーソンの理論に記述してある言葉が抽出されている。それとともにナイチンゲールの理論の中で述べられている看護のとらえ方もあげられ、これら2人の理論家の理論内容と一致した看護がおこなわれていると認知している。

「理論との照合」では、ナイチンゲールやヘンダーソンの考え方が活かされており、2人の理論が使われているとの認知がされている。看護のメタパラダイムは関連していると認知していることは、実習での体験を通して具体的になった結果と考える。しかし、一部の学生の中には、ナイチンゲールやヘンダーソンの理論だけが使われているのではないと認知している者もいる。ナイチンゲールやヘンダーソンでない理論の存在に気づいているが、他の理論家の理論は未学習であることから、どのような理論なのかについては明確になっていない。

「環境のとらえ方」では、人的環境や物理的環境・社会的環境があげられており、それらの環境が人や人の疾病の回復、心に影響すると認知している。ナイチンゲールが強調する物理的環境をとらえている学生が多く、そのためナイチンゲールの考え方と一致していると考えている。「環境のとらえ方」のサブカテゴリーにおいても、「理論と照合」のカテゴリー同様、理論と一致しないと認知した学生もいる。ナイチンゲールやヘンダーソンが理論を記述した時代背景と現在の背景の相違を考え、2人の理論内容と一致しない、との見解に至ったのではないかと考える。

「人間のとらえ方」のカテゴリーにおいても、「個性がある」「環境に影響される」「理解が難しい」「コミュニケーションにより関係を築いている」「ニーズを持つ

ている」などのサブカテゴリーからは、ヘンダーソンがいう人間のとらえ方と類似するサブカテゴリーが抽出されている。「環境に影響される」のサブカテゴリーについては、ナイチンゲールの人間のとらえ方に通じるものである。

「健康のとらえ方」では、「心身のバランスがとれている状態」と記述した学生が多い。「自立している」「心身が充実している」「健康にはレベルがある」「看護の目標である」などのサブカテゴリーは、ヘンダーソンがいう健康のとらえ方や看護の目指している方向性を示している。今回、入院患者の生活環境を観察し、患者へのインタビューを通して、健康と疾病を持つ患者の多様な健康レベルを認知したことは、抽象的な健康のとらえ方から、より明確なとらえ方へと認識が変化していると判断できる。

学生は、看護学概説の中で学習したナイチンゲールとヘンダーソンの理論より、看護のメタパラダイムである人間・健康・環境・看護の4側面から、臨床で行われている看護をとらえていることがわかる。そして2人の理論家の理論と臨床でとらえた看護とを比較しながら、実践と理論との統合をはかっていると考える。今回のように理論を比較・照合資料として、臨床の看護を見学する実習のあり方は、看護に関連する抽象的な概念を、具現化する実習として有用であると判断できた。

結 論

初回基礎看護学実習で学生は、臨床の看護を以下のように認知していた。

1. 学生の認知した臨床看護は、看護・環境・人間・健康のとらえ方と理論との照合の4カテゴリーに分類できた。
2. 学生の多くは、臨床では2人の理論に適合した看護が実践されていると認知していた。
3. 学生は臨床の看護を、看護のメタパラダイムに焦点化してとらえていた。
4. 理論を比較・照合資料として、臨床の看護を見学する実習の方法は、看護に関連する抽象概念を具現化する実習として意義があると判断できた。

文 献

- 1) 松田日登美：基礎看護学実習における実習指導案の検討，日本赤十字愛知短期大学紀要，15，15-29，2004.
- 2) 嘉手苺英子，上原綾子，名城一枝 他：看護の概念形成を目的とした初期看護実習の展開方法，沖縄県立看護大学紀要，5，59-65，2004.
- 3) 村山由子，持木香代，久保陽子：基礎看護学実習の効果を考える（第一報）有効な基礎看護学見学実習のあり方についての一考察，神奈川県総合リハビリテーションセンター紀要，27，65-68，2001.
- 4) 相原ひろみ，徳永なじみ，岡田ルリ子 他：看護学生の基礎看護学実習における学びの分析－日常生活援助を中心とした実習による学びより－，愛媛県立医療技術短期大学紀要，14，33-38，2001.
- 5) 金田代理子，岡本美佐江，平野千穂美 他：学生自身の意志決定と主体的行動の関連－基礎看護学第I期実習後の調査から－，看護展望，25(11)，1284-1288，2000.
- 6) 中川雅子，中西貴美子，吉岡一美 他：基礎看護学実習Ⅱにおける学習内容の分析－基礎看護学実習レポートからみた看護過程の学習内容と自己効力・社会的スキルとの関連－，三重看護学誌，4(1)，57-66，2001.

*Analysis of nursing students' reports on clinical nursing practice during
their clinical Training experience : comparison with reference to
F.Nightingale -V. Hendersons' principles of nursing -*

Hiroko Kondo¹⁾, Taeko Minami²⁾, Maki Iwamoto²⁾, Mizuki Kondo³⁾, and Emi Kunishige¹⁾

¹⁾Major of Nursing, School of Health Sciences, The University of Tokushima, Tokushima, Kagawa, Japan

²⁾School of Nursing, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan

³⁾Ehime University Hospital, Ehime, Japan

Abstract First-year nursing students practiced nursing in a clinical setting during their first clinical training experience. After the training experience, the students submitted a report on how they found clinical nursing. The author analyzed their reports to investigate how the students perceived nursing in a clinical setting, with the goal of improving methods of clinical training. The analysis revealed that the students tended to view nursing from a point of view similar to the meta-paradigm proposed by two theoreticians of nursing, Nightingale and Henderson. The students achieved the target of clinical training, i.e., the opportunity to make a link between clinical practice and the knowledge about nursing they had learned in the classroom. The current clinical training experience was thus judged to be valid.

Key words : clinical practice, clinical nursing, acknowledgment, nursing theory